

第2回税制全体のグリーン化推進検討会

2022年3月4日（金）13:00～14:00

議 事 次 第

1. 開 会
2. 議 事
 - (1) 令和4年度環境省税制改正要望結果について
 - (2) ポリシーミックスとしてのカーボンプライシングの方向性について
 - (3) 国内外における税制のグリーン化に関する状況について
 - (4) その他
3. 閉 会

配 付 資 料 一 覧

【資料】

- ・ 資 料 1 令和4年度環境省税制改正要望結果について
- ・ 資 料 2 ポリシーミックスとしてのカーボンプライシングの方向性について
- ・ 資 料 3 国内外における税制のグリーン化に関する状況について

議 事 概 要

1. 令和4年度環境省税制改正要望結果について

環境省から資料1について説明。これに対する委員からの主な意見は下記のとおり。

- 住宅の脱炭素化にあたり新築住宅への措置が中心になっている中、既存住宅の省エネ改修に係る軽減措置も含めることが重要だと思う。住宅の長寿命化が進んでおり、スクラップアンドビルドの回数を減らして省資源化していくことも重要であり、今回の既存住宅の提案を有難く思う。エコポイント事業や次世代省エネ建材支援事業の中でも既存住宅の施策の拡充や要件緩和を進めていただきたい。（堀井委員）

2. ポリシーミックスとしてのカーボンプライシングの方向性について

環境省から資料2について説明。これに対する委員からの主な意見は下記のとおり。

- GX リーグの評価や内容について、また J クレジットとの関係についてご説明いただきたい。産業界の中でグリーンな技術を進展させるにはある程度有効かもしれない。GX リーグへの環境省の関わり方について伺いたい。（大塚委員）
- J クレジットはその他の自主的なクレジットよりも条件が厳しい。外部クレジットはクレジットによって信頼性が異なると思うが、GX リーグではどのようなクレジットを使うつもりか。（大塚委員）
- 現在は、長期的な時間軸での炭素税率の引上げ、排出量取引における段階的な有償割当への置き換え等、時間とともに制度を厳しくしていく選択肢がある。しかし、時間が経過するにつれ、選択肢が減っていくと思う。（吉村委員）

3. 国内外における税制のグリーン化に関する状況について

事務局から資料3について説明。これに対する委員からの主な意見は下記のとおり。

- ウクライナ情勢によりエネルギー価格の高騰が予想され、エネルギーの本体価格は大幅に上がると思うが、日本政府はどのような対応を取るのか。（堀井委員）
- 最近、日本の電力価格が高騰している要素の一つに FIT 賦課金が上がっていることがあると思うが、今後の電力価格の見通しがあれば伺いたい。FIT 賦課金を、電力だけでなく他のエネルギーにも課したり、炭素税で賄ったりするという事例が他の国であれば教えていただきたい。（堀井委員）
- 2030～40年頃には石油ストーブやガス給湯器からフローベースで100%ヒートポンプ等に転換し電化すると言われているが、その際に電力価格が非常に高いと、そのような動きが

起きにくくなる。FIT 賦課金が 2030 年頃まで上がり続け、ヒートポンプにすべて移行するのが難しい場合、他の様々なスキームも検討する必要があるのではないか。（堀井委員）

- CO2 排出規則のインパクトアセスメントの消費者の便益の算定における外部費用とは、どのように算定しているのか。（栗山委員）
- ドイツの国際気候クラブのように、日本国内の取組や JCM などについて、海外に向けて PR をすることが重要。（大塚委員）
- 原則として明示的な炭素価格のみを加味する、という欧州委員会の炭素国境調整措置の考え方がデファクトスタンダードになる可能性があり、実効炭素価格のようなものを考えていかなければならないのではないか。（横山委員）
- エネルギー関係諸税についても CBAM で考慮してもらおうという議論はあり得るが、日本のエネルギー関係諸税は CO2 の従量税になっていないので、現行のエネルギー関係諸税を CO2 の従量税にする、という議論をすることは可能と考えている。（大塚委員）

以 上